



TITLE:

隠された境界: 中越境界におけるヤオ族の跨境活動と境界社会問題

AUTHOR(S):

楊, 菁華

CITATION:

楊, 菁華. 隠された境界: 中越境界におけるヤオ族の跨境活動と境界社会問題. 2015年度京都大学南京大学社会学人類学若手ワークショップ 東アジア若手人文社会科学研究者ワークショップ報告論文集 2016: 76-77

ISSUE DATE:

2016-06-04

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/215815>

RIGHT:

隠された境界
中越境界におけるヤオ族の跨境活動と境界社会問題
楊 菁華 (YANG Jinghua) *

中越国境 1,300 キロメートル強一帯には、13 の民族が国境を跨って居住している。この 13 の民族（中国政府が民族と認定したもの）とは、チワン族、タイ族、プイ族、ミャオ族、ヤオ族、漢族、イ族、ハニ族、ラフ族、コーラオ族、キン族、回族、プーラン族である¹。ヤオ族は長い歴史をもった跨境民族のひとつである。中国学界内でもヤオ族に対する研究の始まりは比較的早く、国際化の程度も比較的高く、広西民族大学にはヤオ族研究センターも開設されている。中越国境に跨って暮らすヤオ族（跨国ヤオ族）についての研究の主要な成果には張有隽および範宏貴らによる一連の著作がある。張有隽は史料に基づき、ヤオ族が国外へ移動する時期と経路を整理しただけではなく、さらに広西省内のヤオ族に対して総合的で体系的な研究を進めた。範宏貴の『華南と東南アジアの関連ある民族』の中の「東南アジア研究」ではタイ国、ラオス、ベトナムのヤオ族問題や、ヤオ族の雲南、貴州からベトナムへの越境問題、そして中ラ、中越の国境を跨って暮らす民族の問題について論述している。学界における上述の研究は主に、マクロの視点からヤオ族という集団に対する研究に重点を置き、ヤオ族という集団の「流動性」をグローバル化時代に置いて考察することは行われていない。

筆者の研究の主なフィールドは中国の広西チワン族自治区とベトナムのランソン（Lang Son）省の境界地帯である愛店鎮堪愛村の三つのヤオ族集落である。筆者は 2012 年 5 月、2013 年 2 月および 2014 年 4 月の 3 回にわたり上記フィールドにて現地調査を行った。2012 年 5 月に指導教員が学部生を引率して中越国境地帯の三つのヤオ族集落に赴き調査した際に筆者は同行し、現地では 8 割の人々が国境を跨いで家庭を築いていることを発見し驚いた。現地集落の男性の多くはベトナムのヤオ族の女性と家庭を築いており、この特殊な社会現象は現地のヤオ族の生活へ筆者の関心を引き付けた。ヤオ族は歴史上、常に移動しており、華南の峻険な山々を渡り歩く集団であり、彼らはまさしくスコット（James C. Scott）の描く「統治から逃げ出す人々」の特徴と符合する。世代を経て中越国境地帯を移動し生活する過山ヤオ（ヤオ族の下位分類のひとつ）は共通して有する伝統や風習、歴史的記憶が彼らに強烈な集団アイデンティティを形成させたため、このようなアイデンティティは人為的な政治的境界線では消し去ることのできないものである。このため、新たな民族国家（中国とベトナム）が形成された後も、日に日に明確になる国境区分や不断に煩雑化する出入国手続きが両国家に分断されたヤオ族の人々の間の営為を制約することはできなかった。彼らは山中の道を使って両国間を往来し、国境地帯の市場、慶事祝祭、共同の宗教活動、互助的経済活動および通婚などのすべてが双方の集団アイデンティティを持続させるための空間と支援を提供した。資本と貿易のグローバル化の最中にあって、両国間を往復する「流動生活」も彼らのために新たな機会をもたらし、彼らはもはや深山に隠れた「避

* 南京大学、博士在读、社会人类学。

¹ 参考：李崇：《越南边境民族政策对我国云南中越交界地区跨界民族的影响及对策研究》，中央民族大学 2013 年修士論文。

世山人（世を避けた山の人）」ではなく、両国の経済文化交流の中で次第に重要な役割を演じるようになっていく。集団内部のこのような相互性それ自体は問題はないが、両国の「辺境」地域を跳梁する集団の存在は双方の政府の国境管理や人口統制に対しては挑戦となる。山中の道は住民相互に利便性をもたらすと同時に密貿易の余地を残す。それから、中国国境地帯に嫁入りするベトナムのヤオ族女性の大部分は身分証明書を持っておらず、このために彼女らと現地の男性が家庭を築いても、政府へ届け出て法的な婚姻手続きをすることもほとんどない。このような「隠婚」はこれら女性の法的権利を保障させないだけでなく、さらには彼女の次世代を中国の戸籍体系に入れない「黒戸」にさせてしまうのである。かくのごとく、現地でもともと相対的に弱い立場いたこれらのヤオ族集団は、「貧困－跨境通婚－次世代が正規教育を受けられず－さらなる貧困」の悪循環に陥り、周縁化の度合いがさらに深まる。

筆者は中越両国のヤオ族の集落で現地調査を行ったといえども、費用や時間などの制約でベトナムのヤオ族の研究はいまだ充分には行えていないので、さらなる体系的な研究を行いたい。

（翻訳 中山大将、巫靚）